



石原
Ishihara 彩野
Ayano



SNSで発信する写真を撮影



石原 彩野さん（関）

令和元年に㈲醸齶の里に入社し、令和5年から道の駅醸齶の里の駅長を務める。大切にしていることは人とのつながり。休みの日には、年齢も性別も関係なく一緒に楽しめるゴルフを通じて、地域の生産者と親交を深めることも。忙しい日々の癒しは2人の子どもたち。その存在が元気と前向きな気持ちの源。

真

MANIWABITO

庭

人

国道313号線沿い、鹿田にある道の駅醸齶の里。そこで駅長として日々奮闘しているのが石原彩野さんです。「もともと近くの出身で、ここにも小学生の頃おじいちゃんによく連れて来っていました」と石原さん。「結婚して県外に住んでいましたが、地元に戻って子育てをすることになりましたが、人とのつながりが持てる場所で働きたいと思うようになりました。そんな時、近所のおばちゃんがここを教えてくれたんです」と話します。当初はパートでレジを担当していた石原さんは、徐々に経理や庶務なども任されるようになり、駅長代理を経て、令和5年12月に駅長に就任しました。

「生産者さんや業者さん、地域の人、いろんな立場の方が来られる道の駅だからこそできることがあると思っています。ここをいろんな人がつながることができる場所にしたいんです」と話す石原さん。この1年間、市内の事業者とのコラボ弁当の販売や、地域の花火大会に合わせた子どもが楽しめる催しの実施、能登半島地震の影響で販売が難しくなった商品を引き受け販売する活動などを、さまざまなことに取り組んできたそうです。少しずつ外部との関わりも増えて、協力してくれる人も増えました。去年の夏からは、SNSでの情報発信もがんばっています」と話します。

「たくさん的人に助けられて今があります。これからもいろんな人が集まって、それぞれの力を生かして活躍できる道の駅にしていきたいです。私もまだまだ未熟ですが、やりたいことがある人や困っている人がいたら、『うちでこんなふうに語ってくれました。』『やってみん?』と提案できるような知識や経験を持つ人にはいつかなりたいですね」と笑顔で語ってくれました。

地元で道の駅の駅長に

いろんな人とのつながりを大切に

